

鳥取縣公報

告示

號 外 土曜日
昭和十一年十一月二十一日

◆鳥取縣告示第六百二十四號

市街地建築物法施行細則第二十五條ニ依リ左ノ通假設建築物建築ノ件許可セリ

昭和十一年十一月二十一日

鳥取縣知事 立 田 清 辰

一 建築主ノ住所氏名 鳥取市魚町尻二番地

眞 玉 節 藏

一 建築物ノ所在地 鳥取市元魚町二丁目三十七番地ノ三二

一 用 途 住居建築物

一 建築物ノ面積 全建築面積 七六・八五八平方米

一 戸數及棟數 假設部分ノ面積 二七・一五六平方米
一戸 一棟

一 命令事項

- 一 本建築物ノ存續期限ハ都市計劃事業實施迄トス
- 一 前項ノ存續期限満了ノ時ハ都市計劃事業實施者ノ指定スル期日内ニ無償ニテ本建築物ヲ除却スベシ
- 一 本建築物ヲ他人へ讓渡スタル場合ハ十日以内ニ届出ヅベシ
- 一 知事必要アリト認ムルトキハ本命令書ノ條項ヲ増減若ハ變更スルコトアルベシ

彙報

昭和十一年通常縣會ニ於ケル立田知事ノ説明演述要項(十一月二十一日)

不肖圖ラズモ本年四月本縣知事ヲ拜命シテ本縣縣政ニ携ルコト、ナリ茲ニ各位ト相會シテ來年度豫算並ニ縣政各般ノ重要問題ニ關シ御協議申上グルコト、ナリマシタコトハ洵ニ光榮トスル所デアリマス

本縣ノ財政状態ニ就キマシテハ各位ハ既ニ良ク御了承ノ通りデアリマシテ連年窮乏ノ域ヲ脱スルコトガ出來マセズ殊ニ昭和九年及昭和十年ノ災害ニ依リマシテ一層其ノ度ヲ深カラシメマシタコトハ洵ニ遺憾ニ存ズル次第デアリマス。現ニ既往ノ財政計畫ヲ見マスレバ來年度當然ノ歲入不足額ハ實ニ十七万四千圓ノ多キニ達シテ居ルノデアリマスルガ更ニ又法令ノ規定ニ依リ當然増額ヲ要スルモノ、政府ノ方針ニ基キ施行ヲ要スルモノ乃至ハ時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ是非行ハナケレバナラナイモノ等ガ相當澤山アルニモ拘リマセズ一面歲入ニ於キマシテハ稅收入ハ幾分増加ノ傾向ヲ示シテ參リマシタガ其ノ額ハ極メテ少額デアリ其ノ他ノ歲入ニ於キマシテモ大ナル増加ヲ望ムコトガ出來ズ結局歲入歲出ノ均衡ヲ保タシムルコトハ甚ダ困難ナ状態ニ立至ツテ居ルノデアリマス、而モ從來久

00244

シキニ亘リマシテ極端ナル緊縮方針ノ下ニ豫算ヲ編成シテ參リマシタガ爲ニ縣ノ施設ハ各方面トモ不備不振ノ憾ヲ免レナイノデアリマスカラ此ノ上更ニ緊縮一點張リノ方針ヲ踏襲シテ此等差措キ難キモノ迄モ放任シテ置キマスコトハ適當デナイト認メマシテ縣民ノ意ノ在ル所ヲ察シ縣事情ニ即シ結局來年度ハ左ノ方針ノ下ニ豫算ヲ編成致シマシタ。

- 一、縣稅其ノ他縣民ノ負擔トナルベキモノハ原則トシテ之ヲ増徴セザルコト
- 二、一般經費ハ既定ノ方針ニ基キ努メテ節約スルコト
- 三、緊急差措キ難キ施設ハ最少限度ノ經費ヲ以テ之ヲ計上スルコト
- 四、從來施行シ來リシ事業ニシテ比較的重要ナラザルモノハ此ノ際之ヲ打切り其ノ財源ヲ新規事業ニ振り充ツルコト

此ノ方針ノ下ニ編成致シマシタ來年度豫算ハ

歲入經常部	二、七三八、七四二圓
歲入臨時部	四、三二八、五一一圓
合計	七、〇六七、二五三圓
歲出經常部	二、一四二、一六六圓

00245

歲出臨時部	四、九二五、〇八七圓
合計	七、〇六七、二五三圓

デアリマシテ之ヲ前年度豫算總額ニ比ベマスト三百六十六萬五千四百七十二圓ノ減額トナリマスガ其ノ大部分ハ昭和牽災害土木復舊事業ノ進行ニ伴ヒマシテ當然其ノ事業費ガ減少スル爲デアリマス今増加シタルモノノ内主ナルモノニ就キ説明申上ゲマス

現下ノ社會狀勢ハ表面平靜ノ様デアリマスガ其ノ底流ニ於テハ尙嚴重ナル視察及取締ヲ致シマスルト共ニ他面非常時ニ處スベキ充分ナル準備ヲ必要ト致シマス。又一面刑事警察ニ於キマシテモ近時犯罪ノ態様ガ益功妙復雜トナリ其ノ檢舉ガ頗ル困難トナリマシタノデ過般手口票制度ヲ採用スルコト、ナリマシタ。其ノ他所謂暴力犯モ激増致シマシテ其ノ取締モ一層繁雜困難ヲ來シマシタノデ曩ニ内務省ニ於キマシテハ此等特高並ニ暴力犯取締ニ專從スベキ警部補四名ヲ新設スル様命セラレマシテ其ノ所要經費全額ヲ補給セラレマシタカラ之ニ伴ヒマシテ巡查五名ヲ一般縣費ニテ増員スルコト、致シマシタ。又内務省ト府縣トノ間ニ直接連絡スル警察電話ノ架設モ必要デアリマスノデ之ガ架設費約七萬圓ヲ補給セラレマシタカラ既ニ昭和十一年度豫算トシテ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ追加致シマシタ。

來年度ニ於キマシテモ引續キ右警察官ヲ置キ尙直通警察電話ノ維持修繕ニ要スル經費ヲ計上致シマ

シタ。

其ノ經費ハ

警察官ノ増員

七、三二八圓

直通電話ノ維持修繕

二、八六五圓

デアリマス。

昭和七年度カラ同九年度迄三ケ年度間ニ於テ施行致シマシタ時局匡救土木事業ノ内道路ノ改良工事ハ豫算其ノ他ノ關係デ中止トナツテオル箇所ガ相當アリマシテ折角ノ工事モ其ノ効用ヲ完フスルコトガ出來ナイノデアリマス。之ヲ此ノ儘ニ放任シテ置キマスコトハ縣ノ産業交通政策上非常ナ損失ト考ヘマスルノデ來年度ハ總經費二十四万一千九百九十四圓ヲ以テ其ノ工事ヲ完成スルコト、致シマシタ。其ノ内容ハ縣道ノ分工事費十四万六千六百五十圓其ノ監督指導費一万一千圓計十五万七千六百五十圓市町村道工事費十六万二千二百圓其ノ監督指導費三千二百四十四圓計十六萬五千四百四十四圓デアリマス。縣道ニ對シテハ特殊ノモノヲ除キ其ノ四分ノ一タル三万八千七百五十圓ハ地元負擔トシ市町村道ニ對シテハ其ノ五割以内ヲ補助スル見込デアリマス結局縣費負擔金ハ二十万圓トナリマスガ之ハ起債ニ依リ支辨スル見込デアリマス。

本縣ノ府縣道ガ非常ニ破損シテ居リマスコトハ各位モ良ク御承知ノ通りデアリマス、縣道ノ延長ハ

昭和六年度迄ハ一千百三十五軒デアリマシタガ其ノ後産業振興及時局匡救事業ノ爲之ヲ延長致シマシテ現在デハ一千二百五十七軒トナツテ居リマス。然ルニ道路修繕費ハ之ニ伴ツテ増加シテ居ナイノデアリマシテ全國府縣道一軒當リノ修繕費ガ平均六十八圓デアリマスノニ本縣デハ僅ニ四十四圓ニ過ギマセヌ其ノ上雨雪ガ多イノト最近自動車ノ交通ガ頻繁ニナリマシタノトテ路面ガ一層劣惡トナルノデアリマス。就キマシテハ來年度ハ僅少デハアリマスガ修繕費ヲ約一万五千圓増加スルコト、致シマシタ。

縣立中等學校ノ校舎中ニハ建築後既ニ長年月ヲ經過致シマシテ構造物ガ腐朽シテ參リマシタモノヤ又ハ最近學級ノ増加ニ伴ヒマシテ甚シク狹隘ヲ告ゲテ來マシタモノガ多々出來マシテ此等ハ増築又ハ改築ヲ要スルノデアリマスガ縣ノ財政上之ガ出來マセヌノデ已ムナク從來生徒ヤ父兄カラ多額ノ寄附ヲ集メマシテ増改築シテ參リマシタ夫レデハ父兄ノ負擔モ隨分重クナリマスルシ寄附ノ纏ラナイ學校デハ何時迄モ増改築ガ出來マセヌカラ來年度カラハ原則トシテ此等父兄ノ寄附ハ特ニ申出アルモノノ外ハ之ヲ募集セズ中等學校全部ニ亘リ少額ノ授業料ヲ増額致シマシテ之ヲ財源トシ中等學校改築費會計ト言フ特別會計ヲ設ケマシテ年々最モ急ヲ要スルモノカラ順次増改築シテ行クコト、致シマシタ只鳥取高等女學校ハ從來ノ例ニ倣ヒマシテ本館ヲ改築スル目的ヲ以テ父兄其ノ他カラ寄附金ヲ集メテ居リマスカラ既ニ集マツタモノ丈ケハ之ヲ此ノ特別會計ニ受ケ入ル、コト、致シマシ

00248

タ來年度ニ於キマシテハ右申上ゲマシタ鳥取高等女學校ノ教室改築ノ外最モ危險ニ瀕シテ居リマス
 倉吉農學校寄宿舎ノ改築ト全生徒ヲ一度ニ收容スルコトノ出來ナイ米子中學校及鳥取商業學校講堂
 ノ増築トヲ致シタイト存ジマス。

大正十二年公布ノ盲聾學校令ノ規定ニ依リマシテ縣ニ同校ヲ設置シナケレバナラナイノデアリマ
 スガ本縣ハ財政上ノ都合ニ依リマシテ之ヲ設置セズ私立盲聾學校ヲ代用シテ居リマシタガ私立盲聾
 學校ハ先年來各方面カラ多額ノ寄附ヲ受ケマシテ校舎ヲ新築中デアリマス。近ク完成ノ見込デアリ
 マスカラ完成ノ上之ヲ全部縣ニ寄附シテ貰ヒマシテ愈來年度カラ縣立盲聾學校ヲ設置スルコトト
 致シマシタ。

學制ハ

盲ノ部

一學級

初等部

一學級

中等部

一學級

初等部

二學級

中等部

二學級

聾啞ノ部

二學級

二學級

00249

合計

七學級

デアリマス經費ハ經常部八千四百九拾六圓臨時部設備費貳千圓デアリマス。

倉吉農學校、日野農林學校及米子商蠶學校蠶業科ノ實習費ハ從來一般校費中ニ之ヲ計上シ且ツ倉吉
 農學校及日野農林學校ニ於ケル生産收入ハ之ヲ特別會計タル基金ニ積立テマシテ夫々設備ノ改善ニ
 充ツルコト、致シテ居リマシタガ學校ノ實習ニ於キマシテハ其ノ收支ノ關係ヲ重視スルコトガ實業
 教育ノ趣旨ヨリ見テ適當ト認メマスノデ此等實習費ハ一般校費カラ分離シ又生産物收入ノ基金積立
 ハ之ヲ廢シマシテ之ヲ合シ實習費ノ特別會計ト致シマシタ尤モ學校ノ實習デアリマスカラ試験的ノ
 コトモアリ又之ガ指導ノ職員費モ要シマスノデ凡テノ實習費ヲ全部生産收入ノミデ支辨スルコトハ
 多少無理デアリマスカラ當分ノ内實習助手給其ノ他人件費ハ一般會計カラ補給スルコト、致シマシ
 タ本縣ノ風土ハ各種ノ果樹類ニ好適シテ居リマシテ就中二十世紀梨ノ如キハ其ノ品質モ優良デアリ
 産額モ年次増加致シマシテ市場ニ於テハ大ニ名聲ヲ博スルニ至リマシタガ最近他府縣ニ於キマシテ
 モ其ノ産出ニ努力シテ參リマシテ余程脅威ヲ感ズルニ至ツタノデアリマス。就キマシテハ今後優良
 品ヲ多量ニ而モ廉價ニ供給スルコトヲ研究シ且一層販賣ノ統制ヲ圖ルコトガ最モ緊要ノコト、ナリ
 マシタ。昭和十一年度カラ園藝ニ關スル技術員ヲ各郡ニ設置致シマシテ之ガ衝ニ當ラシムルコト
 ナツテ居リマシタガ栽培方法ノ試験研究機關ガ欠ケテ居リマシテ十分ノ指導ガ出來マセスカラ來年

00250

度農事試驗場ニ園藝試驗部ヲ設ケマシテ此等ノ試驗研究ヲナン指導獎勵ニ萬全ヲ期スルコト、致シマシタ其ノ經費ハ四千七百八十圓デアリマス。

養豚業ハ小農家ニ自給肥料ヲ得シムルニ恰好ノモノデアリ又本縣ニハ之ガ普及ノ余地ガアルニモ拘ラズ余リ普及致シマセヌ畢竟養豚業ニ關スル智識ガ幼稚デアアルノト優良品種ガ少ナイノト且又加工シナイガ爲ニ採算上有利デナイノトニ依ルノデアラウト存ジマス。茲ニ於テ來年度カラ縣種畜場ニ養豚部ヲ設ケマシテ優良品種ノ普及、養豚業ノ指導獎勵ニ當ルコト、致シマシタ其ノ經費ハ總額參千百六拾圓デアリマシテ内千六百五拾七圓ハ地元ノ寄附ヲ受ケ種豚賣拂代其ノ他ノ收入六百參圓ヲ差引結局九百圓ヲ一般縣費カラ支辨致シマス。

滿洲國及北朝鮮方面ニハ農産物ノ需要ガ非常ニ多イノデアリマシテ同地方ト最モ近距離ニ在リマス本縣ニ於キマシテハ之ヲ輸移出スルコトガ極メテ有利デアアルト認ムルノデアリマス。從來ハ農會デ其ノ斡旋ヲ致シテ參リマシタガ余リ十分デアリマセヌノデ來年度カラ農會ニ於テハ集荷ヲ掌リ縣ニ於テハ專任技手一名補助員一名ヲ同地方ニ駐在セシメマシテ農産物並ニ工業品販賣ノ斡旋ニ當ルコト、致シマシタ其ノ經費ハ五千五百圓デアリマス。

00251

水産試驗船鳥取丸ハ昭和五年ノ建造デアリマシテ既ニ船齡七年ニ及ビ船体ガ非常ニ老朽シテ參リマシタ、過般海事部ニ於テ檢査ノ結果遂ニ停船ヲ命ゼラレマシタノデ目下引揚中デアリマス。之ヲ修繕スルニ巨額ノ費用ヲ要シマスルシ且又年々修繕ノ煩ニ堪ヘマセヌカラ寧ロ此ノ際之ヲ更新スルヲ當ト認メマシテ來年度新船ヲ建造スルコト、致シマシタ。新船ハ二十噸七十五馬力ノ木造船デアリマシテ建造費ハ二万一千八百圓デアリマス。

林道ノ敷設ハ林業經營上極メテ有利ナルモノデアリマシテ從來補助金ヲ交付シテ其ノ普及ヲ勸奨シテ參リマシタガ尙其ノ敷設ヲ要スル箇所ガ多クアリマスノデ來年度ハ補助金九萬圓ヲ増加シ總額十萬圓ヲ以テ獎勵スル見込デアリマス。縣補助金ハ事業費ノ五割補助デアリマスカラ總事業費ハ二十萬圓トナリマス。縣ノ財源ハ八萬圓ハ國庫補助金二萬二千圓ハ地元寄附金八千圓ガ一般縣費デアリマス。

八頭郡河原町カラ氣高郡賀露村ニ至ル八ヶ町村ノ水田ハ大井手ニ依ツテ灌溉水ヲ受ケテ居リマスガ近來年々用水ノ不足ヲ來シマシテ田植ニスラ支障ヲ來シ爲ニ用水ノ爭奪ニ屢々紛爭ヲ見ル實情デアリマス。昨年當縣會ニ於キマシテモ滿場一致ノ決議ヲ以テ農業水利改良事業ニ依リ同地區ノ水利ヲ改良方意見書御提出ノ次第モアリマシタノデ來年度カリ三ヶ年度ノ繼續費トシテ總工費二十萬圓ヲ以テ之ヲ施行スルコト、致シマシタ。其ノ財源ハ半額ハ國庫ノ補助ヲ受ケ四分ノ一ハ地元水利組合

00252

ニ負擔セシメ四分ノ一ヲ縣ニ於テ負擔スルノデテリマス。此ノ縣費負擔額ハ昭和十三年度カラ三ヶ年度ニ亘リ支出シ其ノ間ハ地元水利組合ニ立替セシムル見込デアリマス。

各種産業ノ共同事業ヲ行ヒマスニハ其ノ創業ニ際リ相當ノ資金ヲ要スルノデアリマスガ概ネ之ガ調達ニ困ルノデアリマス。就キマシテハ來年度縣ニ産業資金會計ト言フ特別會計ヲ設ケマシテ罹災救助基金カラ十五萬圓ヲ借受ケ年利率四分位デ此等ノ事業資金ヲ融通スルコト、致シマシタ。

縣下百七十二ヶ町村ノ内ニハ醫師產婆看護婦等ガ全然居ナイ所ガ尙二十七ヶ村ノ多キニ達シテ居リマス此等ノ村デハ平素病人ノ治療上洵ニ不便デアアルノミナラズ醫師其他ヲ他町村カラ招聘スルトセバ隨分費用モ嵩ミマシテ經濟的ニモ困ルノデアリマス就キマシテハ來年度カラ縣ニ於テ產婆看護婦ヲ養成致シマシテ此等ノ村ニ配置スルコト、致シマシタ。其ノ經費ハ二千七百圓デアリマスガ財源ハ罹災救助基金ノ利子ヲ以テ之ニ充ツル見込デアリマス。

市町村土木事業ニ對シテ交付スル約束トナツテ居ル縣費補助金ノ交付未済ノモノガ二萬四千圓アリマス。又市町村傳染病豫防費ニ對スル縣費補助金ノ交付未済ノモノガ四千四百四十九圓アリマス。最近市町村財政ハ甚シク窮乏ヲ告ゲテ參リマシタノデ斯ルモノヲ何時迄モ交付致サナイノデハ一層其ノ市町村財政ヲ窮迫ナラシムル所以デアリマスカラ來年度ハ此等ハ全部交付スルコト、致シマシタ本縣ノ財政狀態ガ甚シク窮迫シテ居リマスコトハ繰返シ申上グル迄モナイト存ジマス此ノ窮乏ノ

00253

原因ハ多々アルノデアリマセツダ要スルニ縣ノ區域ガ狭クデ而モ産業ノ見ルベキモノガナク加フルニ災害ノ頻發ニ依ルノデハナイカト思ハレマス斯ル財政窮乏ノ結果ハ勢ヒ縣各般ノ施設ヲ整理緊縮シナケレバナラナイノデアリマシテ從來連年緊縮ニ緊縮ヲ加ヘラレテ居リマス然シ尙未ダ歲入ハ歲出ヲ賄フニ足ラズ財政計畫ハ今後久シキニ亘ツテ巨額ノ赤字ヲ表シテ居リマス。他府縣ニ於キマシテハ年々各種ノ積極的の事業ヲ行ヒツ、アルニ獨リ本縣ノミスル窮狀ニ沈倫シナケレバナラナイノハ官民共ニ洵ニ遺憾ニ存スル次第デアリマス就キマシテハ此窮境ヲ打開スルノ途ヲ講ジマスコトガ一日モ急ナルヲ思ヒマシテ來年度縣振興會ノ經費二千圓ヲ計上致シマシタ固ヨリ本縣ノ振興ハ單ニ本縣ノ自治ノミニ依ル丈ケデハ十分ノ目的ヲ達スルコトハ出來マセヌ必ズヤ政府ノ大ナル援助ヲ要スルノデアリマスガ先ヅ縣内ノ各種ノ事情ヲ衆智ヲ聚メテ調査研究シ再檢討シタイト思ヒマシテ取リ敢ズ少額ノ費用ヲ計上シタノデアリマス。

以上歲出ノ主ナルモノニ就キ説明ヲ致シマシタ其ノ他ノ事項ニ就キマシテハ款項ノ御審議ニ這入ツテカラ御説明申上グルコト、致シマス。

次ニ歲入ニ關シテ説明申上ゲマス。

現内閣ハ其ノ成立當時カラ國民負擔ノ均衡ヲ圖ルコトヲ其ノ重要政策ノ一ト致サレマシテ着々調査研究ヲ重ネ過般來其ノ大體ノ骨子ヲ發表セラレテ居ルノデアリマス此ノ案ニ依リマスレバ縣稅ニ在

00254

リテモ相當大ナル變革ガアル様デアリマス。當縣會ニ於キマシテモ先年來縣稅賦課條例ノ改正ヲ要望セラレテ居リマスルシ又實際上相當改正致シ度イモノモアリ且ツ又來年度豫算ニ於キマシテモ多額ノ不足ヲ見テ居リマスルカラ此等ノ不足額ハ何等カノ方法ニ依ツテ補填スルコトヲ要スルノデアリマスガ右申達ベマスルガ如ク目下政府ニ於テ根本的ノ改正案ヲ審議中デアリマスカラ縣稅ノ改廢及増稅等ハ政府ノ改正案ガ確定致シマシテカラ後ニ於テ行フヲ適當ト認メマシテ當縣會ニハ縣稅賦課條例ノ改正案ハ提案シナイコト、致シ右歲入不足額ハ一應舊債借替資金トシテ起債ニ依リ支辨スルコト、致シマシタ。

以上ハ大体ノ説明デアリマシテ各款項ニ於キマシテ増減シタ點ハ澤山アリマスガ詳細ノ點ニ就キマシテハ御質問ニ依リ私又ハ參與員カラ御答辨申上グルコトト致シマス 何卒慎重御審議ノ上適當ニ御決議アラシコトヲ切望致シマス。

尙此ノ機會ニ於キマシテ災害復興事業ノ概況ヲ報告申上ゲマス。

昭和九年ノ災害復興事業ハ總額三千四百萬圓ニ達スル大事業デアリマスノデ縣ニ於キマシテハ特ニ復興事務局ヲ設ケマシテ銳意工事ノ完璧ト其ノ進捗トヲ圖ルハ固ヨリ往々ニシテ陥リ易キ不正事件ノ勃發乃至ハ民心ノ弛緩等ヲ來スガ如キコトナキ様努力ヲ致シテ居ル次第デアリマス。幸ニ各位ノ御援助ニ依リマシテ工事モ順調ニ進ミマシテ現在迄ノ進捗程度ハ

00255

土木關係	四割五分
耕地關係	四割九分
山林關係	七割三分
漁業關係	十割

デアリマシテ大半無事ニ終了致シマシタ事ハ洵ニ欣ビトスル所デアリマス。當局ト致シマシテハ私ハ固ヨリ關係職員一同更ニ緊張致シマシテ此ノ大事業ヲ完成スルコトニ努力スル覺悟デアリマスカラ各位ニ於カレマシテモ此ノ上トモ更ニ御援助アラムコトヲ切望致シマス。